

今冬の需給見通しについて

平成28年11月29日
関西電力 株式会社



これまで、夏季・冬季の需給検証は、国の電力需給検証小委員会（総合資源エネルギー調査会基本政策分科会）にて取り纏められていましたが、今冬より、検討の場が同委員会から電力広域的運営推進機関に移管されました。

国が実施してきた検証の基本的な考え方を継承^{*1}しつつ、エリア全体での検証^{*2}が行われています。

*1：電力需給は保守的に見込む。これまでの検証手法を踏襲。

*2：新電力等も含めた関西エリア全体の需給バランスを検証。

需要面

気温が低くなるリスク^{*1}を想定した上で、直近の経済見通し、節電の定着状況等を反映。

*1：過去10年間における厳冬を想定（関西：平成23年度並）

2

供給面

以下の～を合算。

小売事業社が調達済（契約済）の供給力

送配電事業社が調達済（契約済）の供給力

発電事業社が販売先未定で保有している供給力

3

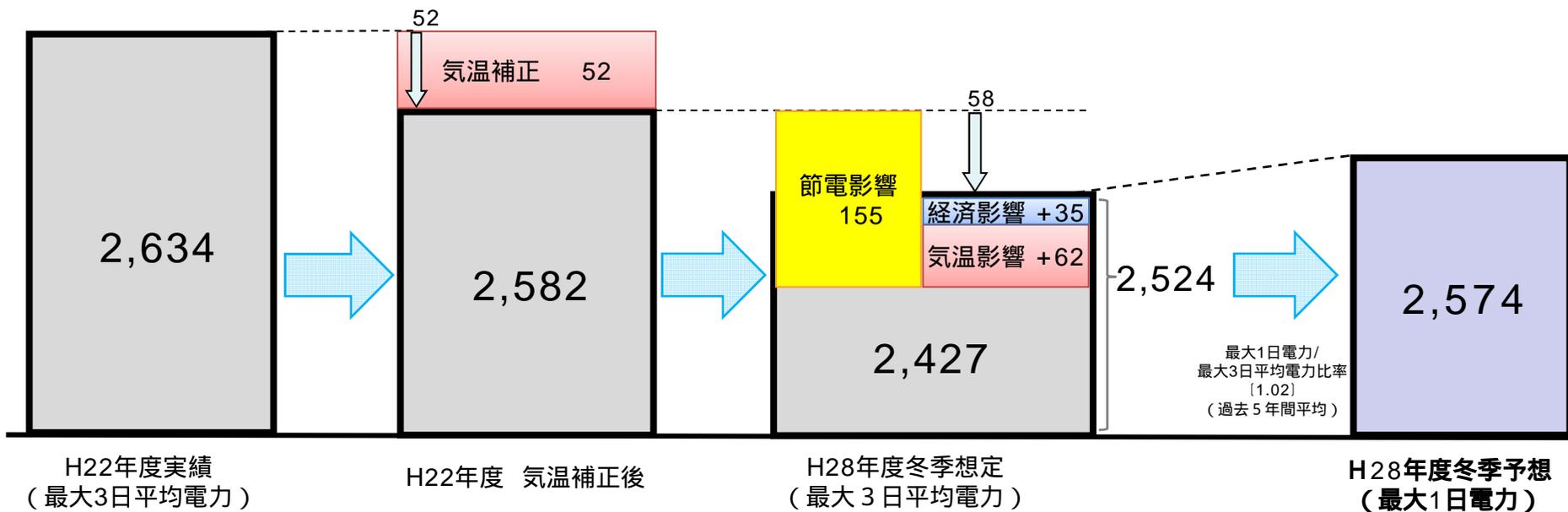
需給バランス

・各エリアの需給バランスは、中西日本全体等の広域的な視点を含めて検証。

・発送電設備のトラブルリスクも考慮した需給状況も評価。

4

今冬の需給につきましては、平成23年度並みの「厳寒」を想定しつつ、「直近の経済見通し」、「節電の定着状況」を踏まえて想定しています。その結果、今冬の需要は、2,574万kWを予想しています。



: 気温補正
 H22年度実績に含まれる気温影響を平年並みに補正 (平年に比べて寒かったため、相当分を減算 [52万kW])

: 想定される影響
 節電影響: 平成27年度の節電実績 (185万kW) に対して、本年8月~9月に実施した関西エリアのアンケート調査の節電継続率 (84%) を乗じて算定しており、今冬の節電影響は、155万kWと想定。
 経済影響: 直近の経済見通しおよび関西エリアの工場やスーパーの出店・撤退等の地域実情も考慮して、+35万kWと想定。
 気温影響: 今冬が過去10年間で最も厳寒であった冬 (関西エリアはH23年度) となった場合、+62万kWと想定。

: 最大1日電力への換算
 今冬の需要想定は、で算出された最大3日平均電力を最大1日電力へ換算 (×1.02 [過去5年間平均]) し、2,574万kWを想定。

今冬の需給見通しにおける供給面の考え方

これまで、需給検証の対象は旧一般電気事業者（関西電力等）に限定されていましたが、ライセンス制の導入に伴い、新規参入者も含めたエリア全体での評価がなされています。

関西エリアの今冬見通しについては、2月で想定需要2,574万kWに対し、供給力が2,810万kW、予備率が9.2%となり、電力の安定供給に必要な予備率（3%以上）を確保できる見通しです。

[参考：関西エリアにおける主な事業者]



今冬の需給バランスにつきましては、中西6エリアにおいても、予備率8%を越えており、電力の安定供給に必要な予備率(3%)を確保できる見通しとなっています。

〔12月〕	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	中西6エリア	9エリア
供給力	2,376	536	2,720	1,179	537	1,558	8,906	16,314
最大電力需要	2,305	495	2,509	1,006	491	1,355	8,161	14,723
供給予備力	71	41	211	173	46	203	745	1,591
供給予備率	3.1	8.3	8.4	17.2	9.3	15.0	9.1	10.8
予備力3%確保に対する不足分								
〔1月〕	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	中西6エリア	9エリア
供給力	2,456	569	2,813	1,225	542	1,610	9,215	16,686
最大電力需要	2,381	515	2,574	1,057	491	1,479	8,497	15,449
供給予備力	75	54	239	168	51	131	718	1,237
供給予備率	3.1	10.5	9.3	15.9	10.4	8.9	8.5	8.0
予備力3%確保に対する不足分								
〔2月〕	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	中西6エリア	9エリア
供給力	2,482	558	2,810	1,215	536	1,631	9,232	16,583
最大電力需要	2,381	515	2,574	1,057	491	1,479	8,497	15,442
供給予備力	101	43	236	158	45	152	735	1,141
供給予備率	4.2	8.3	9.2	15.0	9.2	10.3	8.6	7.4
予備力3%確保に対する不足分								
〔3月〕	中部	北陸	関西	中国	四国	九州	中西6エリア	9エリア
供給力	2,369	528	2,728	1,162	495	1,535	8,816	15,860
最大電力需要	2,221	493	2,301	953	430	1,259	7,657	14,094
供給予備力	148	35	427	209	65	276	1,159	1,766
供給予備率	6.7	7.0	18.5	21.9	15.1	21.9	15.1	12.5
予備力3%確保に対する不足分								

本需給バランスは、安定供給に必要な予備率3%を下回る中部エリアの供給力を、他エリアからの取引で賄う場合の試算結果。

出典)「電力・ガス基本政策小委員会」の電力需給検証報告書を基に作成

関西エリアのこの冬の需要につきましては、これまでからお客さまにご協力を賜っております定着した節電の効果等を踏まえ、最大電力2,574万kW（平成23年度並みの厳寒）と想定しています。

一方、供給力につきましては2月で2,810万kWとなり、電力の安定供給に必要な予備率（9.2%）を確保できる見通しが確認され、国として、特別な節電要請は行わず、省エネルギーの取組みを進めていくことが示されました。

当社としては、プラントの保守・保全に万全を期すとともに、奈良県節電協議会の皆さまと連携して、省エネルギーの活動を推進させていただきます。

当社は、今後も引き続き、お客さまへ電気を安全かつ安定的にお届けする使命をしっかりと果たしてまいります。